

教育に関する事務の点検及び評価報告書

(平成30年度事業分)

令和元年9月

葛城市教育委員会

目 次

	はじめに.....	1
1.	教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について.....	2
2.	教育に関する事務の点検及び評価について.....	2
3.	教育委員会点検・評価に関する有識者の概要.....	4
4.	教育委員会の運営及び活動状況.....	5
5.	葛城市総合計画に基づく政策体系について.....	9
6.	教育委員会事業評価シート.....	1 1
7.	点検及び評価のまとめ.....	5 9

はじめに

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、教育委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成２７年４月１日には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られたところです。

この「教育に関する事務の点検及び評価」は、平成２０年度より毎年、事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表しております。今年度は、平成３０年度事業評価にあたり、前年度評価の実施後、改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。５月には、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめたものです。

1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

(1) 趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- 1) 葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。
- 2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年1回実施する。
- 3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- 4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。
(「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。)
- 5) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

2. 教育に関する事務の点検及び評価について

(1) 評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業（今回は平成30年度事務執行分）とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

（２）今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました（教育委員会事業評価シート（計画）・（実施内容）・（評価）各欄）。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました（教育委員会事業評価シート（有識者意見）欄）。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました（教育委員会事業評価シート（方向性）各欄）。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました（点検及び評価のまとめ）。

（３）点検・評価の経緯

①平成３０年度 ３月定例教育委員会会議（平成３１年３月２８日開催）

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

②教育に関する事務の点検及び評価 有識者ヒアリング

（令和元年 ５月２９日・３０日開催）

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

③令和元年 ７月 教育委員からの意見の聴取

教育に関する事務の点検及び事業評価についての意見を聴取しました。

④令和元年 ８月 教育委員の意見総括と最終決定

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

⑤「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。

（令和元年９月提出予定）

(4) 各事業の方向性

平成30年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	2件
現状のまま継続する	11件
見直しのうえ継続する	10件
事業の縮小を検討する	0件
休止、廃止を検討する	0件
終了・完了	0件

(主要施策ごとの評価は、P13～P60に掲載)

3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡野 晴充 (元小学校校長、葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員、歴史博物館協議会委員)

川中 教正 (當麻寺奥院 副住職)

(主要施策ごとの意見は、P13～P60に掲載)

4. 教育委員会の運営及び活動状況

(1) 教育長及び教育委員について

教育長及び教育委員は下表のとおりです。(令和元年9月1日 現在)

職 名	氏 名	備 考
教育長	杉澤 茂二	
教育長職務代理者	和田 治	
委 員	米田 知昭	
委 員	高木 希容子	
委 員	西川 吉昭	

(2) 教育委員会議及び審議状況について

平成30年度は合計で16回の委員会を開催し、審議事項9件、協議報告事項36件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4月17日	なし	・教育委員会人事異動について ・教育委員会後援名義の使用について ・平成30年度学校教育課程について
5月11日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
5月28日	・葛城市要保護及び準要保護児童生徒援助費及び特殊教育就学奨励費支給要綱の一部を改正することについて ・葛城市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部を改正することについて	・教育委員会後援名義の使用について
6月12日	なし	・葛城市学校給食運営委員会委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について

開催日	審議事項	協議報告事項
6月26日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
7月26日	・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・教育委員会後援名義の使用について
8月22日	・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・葛城市文化会館協議会委員の委嘱について ・葛城市教育委員会公印規の改正について ・葛城市教育委員会評価について ・教育委員会後援名義の使用について
9月6日	なし	・葛城市教育委員会共催の依頼について ・こども・若者サポートセンター等の改組について
9月16日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・こども・若者サポートセンター等の改組について ・葛城市いじめ防止基本方針について ・葛城市運動部活動の在り方に関する方針について ・全国及び奈良県学力・学習状況調査について ・いじめに関するアンケート調査について
10月31日	・教育に関する事務に係る議案の意見聴取について	・教育委員会後援名義の使用について
12月25日		・新庄北小学校の卒業式式典内容変更について ・教育委員会後援名義の使用について ・葛城市学校給食運営委員会委員の推薦について

開催日	審議事項	協議報告事項
1月10日	・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・葛城市文化会館協議会委員の委嘱について ・葛城市歴史博物館協議会委員の委嘱について ・学校給食運営委員会委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について
1月30日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
2月22日	・平成30年度葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・平成31年度葛城市一般会計予算に対する意見聴取について ・平成31年度葛城市学校給食特別会計予算に対する意見聴取について	・教育委員会後援名義の使用について
3月8日	なし	・葛城市遊技場建築審査会会員の選出について ・葛城市文化会館協議会委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について
3月28日	なし	・人事異動について ・教育委員会後援名義の使用について

(3) 教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・各幼稚園、小・中学校入学式（4月10日～12日）
- ・奈良県市町村教育委員会連合会会議（5月8日）
- ・人権教育シンポジウム（7月17日）
- ・葛城市立学校新着任者研修会（8月22日）
- ・市民体育祭（9月16日）
- ・各幼稚園、小・中学校運動会（9月22日～10月10日）
- ・総合教育会議（10月10日）

- ・奈良県市町村教育委員会研修大会（１１月９日）
- ・各小・中学校訪問（１０月２３日～１１月２６日）
- ・市町村教育委員会研究協議会（１１月２１日～２２日）
- ・各幼稚園訪問（１月３０日、２月６日）
- ・葛城市駅伝・マラソン大会（１月１３日）
- ・成人式（１月１４日）
- ・教育委員会人事具申ヒアリング（１月１６日）
- ・生涯学習まちづくり推進大会（２月１７日）
- ・孝女伊麻顕彰法要（２月２７日）
- ・各幼稚園、小・中学校卒業式（３月１５日～１９日）

5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について
葛城市総合計画については以下のとおりです。

都市像	政策の柱
歴史を重ね、未来を育む 時代を超えて 愛される住みよい共存の都市_{まち} 葛城	調和・共助 ～多種多様な価値観が共存するまち～
	壮健・学習 ～心と身体が健やかに育まれるまち～
	活力・安全 ～にぎわいあふれる安心なまち～

政策目標	施策目標
市民みんなが活躍できる社会の構築	高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする 女性が積極的に社会進出できる社会を形成する
豊かな自然の保全・継承	循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める
歴史・文化と調和的な地域づくり	歴史や文化の保護・活用を図る 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める
誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり	未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸 安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり 運動の場の形成を通じた市民の健康の増進
教育・学習による未来の市民づくり	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める
生涯学習による豊かな心の涵養	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する 人権教育により差別のない社会を形成する
住みよいまちを支える社会基盤の実現	基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める 管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する
産業振興による地域の稼ぐ力の向上	農商工業の地場産業を育成し、活性化させる 観光業の振興によるまちの賑わい創出
安心・安全な生活環境の整備	自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする 地域の防災体制を強化し、犯罪の発生を抑止する

※網掛け部は今回の教育委員会評価対象事業において目標とされている施策です。

6. 教育委員会事業評価シート

【平成30年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

事業 No. 1	空調設置工事
事業 No. 2	小・中・幼各所改修工事
事業 No. 3	小学校スポーツ教室委託事業
事業 No. 4	学校給食事業
事業 No. 5	葛城歌壇短歌大会
事業 No. 6	読書活動支援・講座
事業 No. 7	ブックスタート事業
事業 No. 8	成人式式典事業
事業 No. 9	青少年健全育成事業
事業 No. 10	学校・地域パートナーシップ事業
事業 No. 11	生涯学習まちづくり推進大会
事業 No. 12	葛城アートフェア事業
事業 No. 13	公園まつり実行委員会業務
事業 No. 14	地区間教室・講座事業
事業 No. 15	中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業
事業 No. 16	文化振興事業
事業 No. 17	展示（常設展・特別展等）事業
事業 No. 18	歴史講座開催事業
事業 No. 19	埋蔵文化財等調査事業
事業 No. 20	各種教室開催事業
事業 No. 21	各種スポーツ大会等開催事業
事業 No. 22	体育施設の管理運営事業
事業 No. 23	総合型地域スポーツクラブ事業

教育委員会事業評価シート

		事業No.	1
事務事業名	空調設備設置工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	市内各幼稚園

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	昨今の気温上昇による子どもの健康管理上および快適な教育環境のもとでの学習のため。				
事業の内容	平成30年度は、市内3園の幼稚園の空調機器未設置の保育室及び多目的室に空調機器の設置を行った。 設置数について、忍海小学校附属幼稚園4室、當麻小学校附属幼稚園4室、磐城小学校附属幼稚園4室に空調機器を設置した。				
事業対象	各幼稚園				
事業年度	口	区分指定無	■	平成 30年度	～ 平成 30年度 間

(実施内容) ※H29年度は小学校の実績

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		360,925	22,680	31,500
		内一般財源		288,660	19,088	31,500
		内国・県補助金		72,265	3,592	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		6,284	3,580	3,580
		総コスト①+②		367,209	26,260	35,080
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	施工	円	340,511,040	22,680,000	31,500,000
		設計	円	20,414,160		
	事業 成果	空調設置教室数				
		小学校	室	120		5
		中学校	室			2
		幼稚園	室		12	

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	A		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	各幼稚園に配布の使用指針を基準とした使用を進める一方で、園舎の位置による日照等各条件による臨機応変な使用も伝えながら、園児の健康面を第一とした使用を毎年度当初に、幼稚園管理職へ伝えていかなければならない。また、学習面及び健康面において、今後いかにその結果が反映されるかが、空調設置事業の今後の大切な評価になるものである。学習・健康面において、結果が反映されているかどうかについては、今後注視していく必要がある。							
事業の課題・問題点	複数の保育室に機器設置を行っているが、全機器の使用状況を把握する集中コントローラがないため、各保育室での臨機応変な操作の対応が求められる。取扱い説明書等による分かり易い操作方法を示すようにし保育現場でのスムーズな運用ができるようにしていく。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	年度当初に行う運用指針の徹底を図り、適切な運用を促す。
-------------------	-----------------------------

(有識者意見)

有識者意見	奈良県の公立学校の空調設置状況は、全国平均から比べて遅れているといわれる中で、葛城市は教室の設置率100%を誇り、平常の授業に影響を与えることなく工事も完了しています。ただし機材には標準の耐用年数があり、また故障もありうるので、今後はメンテナンスを含めた運用について議論が必要だと思います。 異常気象により社会的に大きな影響をもたらしている現在、空調設備の設置によって子供たちが快適な教育環境の下で教育を受けられ、それによって学習の効率が上がり、学力向上につながっていくものと考えられる。また、運用指針も作り適切な運用がなされ充分評価できる。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	標準の耐用年数を念頭におき、稼働年数の把握に努め、年度内におこる不具合の対策を次年度に活かせるようにする。また、空調点検業務の報告と不具合を照らし合わせ、対策を講じることも実行していきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	小・中・幼各所改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	各幼稚園・小・中学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	教育施設の危険箇所・老朽箇所を改修し、児童・生徒の安全を確保するとともに、快適な教育環境の提供を行う。				
事業の内容	より良い教育環境を築くため、小・中・幼の建物・設備の中規模程度の改修工事を実施した。 小学校では、新庄北小学校でプール塗装改修、忍海小学校でプール棟屋根塗装改修、磐城小学校で職員室ホワイトボードシート設置、當麻小学校でプール機械室棟換気扇設置及び家庭科室照明器具LED更新を行い、中学校では、新庄中学校でグラウンド野球スコアボード撤去及びプールサイド床シート張替、白鳳中学校で2階東側渡り廊下改修を行い、幼稚園では、新庄小学校附属幼稚園で遊戯室雨水侵入対策を行った。				
事業対象	各幼稚園、小中学校				
事業年度	口	区分指定無	■	平成 30年度	～ 平成 30年度 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度決算見込み	令和元年度予算
			事業費 ①	13, 068	5, 222	2, 635
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	13, 068	5, 222	2, 635
				0	0	0
				0	0	0
			人件費 ②	9, 273	2, 864	2, 864
			総コスト①＋②	22, 341	8, 086	5, 499
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	新庄北幼増築	円			
		各所工事	円	13, 068, 000	5, 221, 800	2, 634, 689
	事業 成果	教室増数	室	0	0	0
		各所工事箇所		新庄小学校/男女職員トイレ改修他 忍海小学校/屋外トイレ改修 新庄北小学校/パソコン室カーテン取付他 磐城小学校/配膳室改修 常麻小学校/廊下窓手摺り取付工事 新庄中学校/渡り廊下漏水補修 白鳳中学校/プール日除け庇屋根改修工事 新庄幼稚園/年少トイレ改修他 新庄北幼稚園/通用門塗装改修	新庄北小学校/プール塗装改修 忍海小学校/プール棟屋根塗装改修 磐城小学校/職員室ホワイトボード設置 常麻小学校/プール機械室棟換気扇設置、家庭科室照明器具LED更新 新庄中学校/グラウンド野球スコアボード撤去、プールサイド床シート張替 白鳳中学校/2階東側渡り廊下改修 新庄幼稚園/遊戯室雨水侵入対策	新庄北小学校/体育館コウモリ対策、南棟普通教室照明器具増設 磐城小学校/南館教室床修繕、職員室東側外部出入口引戸改修 忍海幼稚園/木製遊具塗装補強 常麻幼稚園/手洗い、足洗い場塗装

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	A		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	各学校からの要望について、児童・生徒の衛生面、安全面、利便性の向上等を検討し、緊急性の高いものは本事業で施工することにより建物全体の長期寿命化にもつながることができた。							
事業の課題・問題点	各学校とも建築より相当年数が経っており、学校側が要望する修繕箇所も年々増えているが、予算上全てに対応できない。子どもの命を第一に考え、緊急を要する箇所から行うとし、安全で安心できる学校施設の環境づくりを進める必要がある。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	各学校からの要望箇所を把握、確認しできる限り早期に改修、対応することで建物の寿命を延ばすようにする。また住宅開発の動向及び人口動態の動向に注意し、各学校の教室数などに影響が出ないように努める。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	教育施設からの要望に応じて随時改修を行う事業です。施設の老朽化が進んでいる中で、保護者を始め外部からは教育現場での安全性と快適性を求める声が大きくなっています。施設の修理やメンテナンスにゴールはありませんので、本事業を通じて真摯に対応していくしかありません。 子供たちが毎日活動する幼稚園・小学校・中学校は、安全でなくてはならない。そのために、施設点検を定期的実施され、危険箇所等は修繕・改修し計画的にすべての教育施設の環境整備に取り組んでおり、評価できる。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	教育施設において、修繕・改修は総て園児・児童・生徒ためであることを、常に意識し迅速な対応をする必要がある。安全な空間で素晴らしい思い出を残せるようにお手伝いする思いである。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	小学生スポーツ教室委託事業	担当課名	学校教育課
係 名	学習指導係	施 設 名	小学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	様々なスポーツのトップアスリートを、特別授業講師「夢先生」として迎え、実体験等に基づく授業を通して、仲間を思いやることや、仲間と協力すること、夢を持つことの大切さ、失敗を乗り越えて夢や目標に向けて努力しようとする意識や態度を育む。				
事業の内容	「小学生スポーツ教室委託事業」とは、日本サッカー協会が実施しているもので、サッカー界だけでなく他のスポーツのトップアスリートとの交流を通して、子ども達の心身の健全な発達に貢献していくプロジェクトであり、「DREAM 夢があるから強くなる」をスローガンに掲げ、「夢の教室」をテーマにしている取組である。 平成30年度は、「新庄小学校」は佐藤久佳氏、加藤 和氏、「忍海小学校」は株木孝行氏、「新庄北小学校」は今村 駿氏、「磐城小学校」は佐藤久佳氏、岡田麻央氏、株木孝行氏、「當麻小学校」は伊藤華英氏を講師として招き、各小学校5年生を対象に実施した。				
事業対象	市内の小学5年生				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		1,670	1,645	1,929
		内一般財源		1,670	1,645	1,929
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②				
		総コスト①+②		1,670	1,645	1,929
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	対象人数	人	415	395	400
	事業 成果	授業を受けてよかった	%	—	99.24	100.00
		授業を理解できた	%	—	89.57	100.00
		自分の夢を考えるようになった	%	—	81.42	100.00

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	○政策目標に合致しており、その達成に向けて貢献している。 ○業務委託で実施しており、事務の効率化が図られている。 ○平成30年度の夢先生実施後のアンケート結果において、「夢先生の授業を受けて良かった」と回答した児童の割合が「99.24%」、「もし機会があれば、別の夢先生の授業も受けてみたい」が「98.47%」といずれも高い値で、毎年高評価を得ており、子どもたちにとって「夢を持つことやそれに向かって努力することの大切さ」を学ぶ非常に良い機会となっており、事業の目的と合致している。							
事業の課題・問題点	公益財団法人日本サッカー協会の事業として実施されているもので、講師「夢先生」の日程の都合があるので致し方ないが、市内の同一小学校で、クラスによって講師が違う場合がある。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	特別授業講師「夢先生」等スタッフの方々の往復の交通費(旅費)経費節減のため、5校でできるだけ連続した日で実施できるよう日程を調整・計画している。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	県内では5つの市町村でしか行われていない事業です。小学生という時期は多くの可能性を秘めています。夢や希望を選択し、実現に向けて努力する。その具体的な姿勢を、トップアスリートの姿を通じて触れることができるのは、児童にとって貴重な機会になり、ひいては葛城市に在住するメリットの一つになると考えます。 去年度できなかった事業実施後のアンケートをとり、児童に高評価を得ていることは充分評価できる。本年度で5年を経過するので、これまでの事業の内容を再検討し、これからも児童のニーズを的確に把握し、児童にとって有意義であり生涯学習につながるよう企画・運営をお願いしたい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	現状のまま継続し、これからも児童のニーズを的確に把握した中でスポーツ教室を実施する。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校給食センター
係 名	学校給食センター	施 設 名	学校給食センター

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。				
事業の内容	葛城市の給食事業は、給食センターから幼稚園5園・小学校5校・中学校2校で、給食数1日約4,200食を調理・配送・回収・洗浄する学校給食事業を実施している。 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するために、献立の作成や食材の選定を行い、学校給食衛生管理基準に基づき、全ての学校給食関係者の衛生管理の意識の徹底を図っている。また、設備機器等の保守点検業務も統一して行っている。 食育の取り組みでは、地産地消を推進して地元産の米や野菜への理解を深め、毎月の「給食だより」に旬の野菜等の説明を入れて食への関心を高める。また、食物アレルギーにも対応した給食を提供している。				
事業対象	幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒				
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		334,381	331,475	361,700
		内一般財源		159,210	154,757	177,647
		内国・県補助金				
		内受益者負担		175,171	176,718	184,053
		人件費 ②		18,419	16,944	18,248
		総コスト①+②		352,800	348,419	379,948
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	給食材料費	千円	187,084	194,031	197,849
		内市費	千円	11,913	17,313	13,796
		内保護者負担金	千円	175,171	176,718	184,053
	事業 成果	給食人数	人	4,205	4,138	4,354
		給食数	食	721,137	714,420	792,400
						人数×182回

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成26年の消費税増税分の値上げ以降は給食費の値上げを行っておらず、市からの助成金により運営を行っている。メニューの工夫・食材のやりくりについての努力を重ね、安心・安全な給食の提供に努めている。地場産物として、米は葛城市産ヒノヒカリ100%を使用し、葉ねぎや季節野菜を市内産でまかなっている。また、季節の食材として柿なども使用している。今後も食育の一環として、地場産物や季節食材への理解を深め、積極的に取り入れ、食への関心を高めていきたい。			
事業の課題・問題点	・異物混入対策 ・アレルギー対策 ・地産地消に関する取り組み(安定的な質・量の確保) ・食材等原材料費の価格上昇			

評価を受けての改善点(過去3年間)	安心・安全な給食の提供を第一とし、アレルギー対応については平成27年9月より乳・卵・エビ・カニの4品目のアレルギー食品についての対応食を実施。調理配送は外部委託で行っている。地産地消については、関係機関との連携を強化して、安定的な供給につながるような組織づくりを図る。米については奈良県産「ヒノヒカリ」を使用している。平成31年1月から奈良県産を葛城市産100%に変え、より身近な食材を使用している。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	学校給食は児童生徒の健康な成長だけでなく、近年注目される食育の観点からも重要です。また、子どもたちが摂取する食事ということで当然、事故やトラブルは許されません。今後も安心安全を第一に、アレルギーや完食問題など細分化する時代のニーズに応じた事業展開と、学校との連携が必要です。 食の安全・アレルギー対応及び食育の取り組みを行い、地産地消についても関係機関と連携して安定した供給に取り組んでおり、評価できる。しかし、今後食材等の原材料費の価格上昇が見込まれ、安全・安心で栄養のバランスのとれた美味しい給食の提供を維持するためにも給食費の値上げについて検討する必要がある。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	食の安全・アレルギー対応及び食育に積極的に取り組むとともに、委託業者への定期的な点検を実施し、安全・安心で栄養バランスのとれた美味しい給食の提供に取り組みます。給食費については適正な料金を学校給食運営委員会に諮りながら検討していきます。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	葛城歌壇短歌大会	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	葛城市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂と、葛城市出身で日本芸術院会員・前川佐美雄の二人の偉大な歌人を顕彰し、短歌のふるさと“葛城”を目指すとともに、日本文化の継承と言語文化の創造を通して、生涯学習の拠点づくりに資する。				
事業の内容	葛城歌壇は葛城市にゆかりのある柿本人麻呂と前川佐美雄を記念し、「広く後世まで受け継がれる事業」となることを願い、創設された。 平成30年度は、出詠者数1,949名、応募作品数2,198首で、11月23日(金・祝)葛城市歴史博物館あかねホールにおいて、表彰式と選者による出詠作品の講評を行った。				
事業対象	小学生から大人までの市民をはじめ、すべての人々。				
事業年度	☒	区分指定無		☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成２９年度決算	平成３０年度決算見込み	令和元年度予算
			事業費 ①	1,335	1,353	1,396
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	1,153	1,195	1,216
				182	158	180
			人件費 ②	2,646	4,519	3,000
			総コスト①＋②	3,981	5,872	4,396
実績と 成 果	区 分		単位	平成２９年度実績	平成３０年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	選者講師謝金	千円	280	280	280
		印刷製本・送料	千円	961	931	903
		短歌講座講師	千円	20	20	20
		各種奨励費	千円	74	74	93
	事業 成果	応募者数	人	1,824	1,949	1,950
		応募作品数	首	2,102	2,198	2,200
		大会参加者数	人	78	73	100
		短歌講座参加者	人	16	19	30

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成30年度の葛城歌壇短歌募集事業は、前年度に比べ出詠者数も出詠短歌数も共に増加したが、一般出詠者数が34人の減、小学生出詠者数は203人の増となった。 年齢層では高齢者が多く、一般出詠者数が年々減少している。 これまで一般出詠者数を増やすために広報や短歌講座の実施に力を注いできたが、今後は今までとは違う対策を考える必要がある。 また、小学生の部では初めて葛城歌壇に応募した小学校があり、出詠者数と作品数が増加した。昨年より学生は一人1首しか出詠できなくなったことで、短歌を作りやすくなったことが要因と思われる。			
事業の課題・問題点	葛城市民および近隣その他市町村を含めた一般出詠者の減少は、上記「評価の説明」のとおりで、また大会参加者の減少に伴い、作品集の送料も嵩(かさ)んでいる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	学生の負担を考慮して出詠数を一人1首としたことが功を奏し、小学生の部の出詠者数が増加した。中学生になっても葛城歌壇に出詠してもらえるように、魅力ある葛城歌壇を作りたいと思う。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	高齢化が進む一般参加者からの出詠が減少する中で、減少数の何倍もの小学生参加者が増加している状況です。その内訳をみると市内小学校の参加が増加しているだけでなく、市外の児童、県外の児童の出詠も目立ちます。短歌出詠の機会が学校教育に取り入れられていることは喜ばしいことです。が、事業主目的である「短歌のふるさと葛城」が児童に伝わっているか、短歌に興味が無い一般の方に向けて発信されているのか。改善点はまだあると考えます。 本年度、葛城歌壇に関心をもってもらえるよう若年層や小・中学生に対しての取り組みがなされ一定の成果が得られ評価できる。これからも、多くの市民や近隣の市町村及び団体に葛城歌壇に関心をもってもらえるよう今まで以上に啓発に力を入れていく必要がある。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	例年、各小・中学校より多数の児童・生徒から出詠いただいておりますが、引き続き児童・生徒の出詠を維持し、一般応募者(高校生以上)への出詠については、今以上の周知と応募しやすい環境づくりを行いたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民に図書館を身近に感じていただき、図書館の利用促進を図る。 また、読書活動の推進や知識を身につけるため、おはなし会などボランティア団体に対しての支援を行う。				
事業の内容	読書活動での知識の向上を目的に、平成30年度は「風蘭忌ー前川佐美雄と学び舎」、「文学講座ー古典世界からみる葛城ー」、「児童向け講座-昆虫のひみつ-」の3講座を開催した。 また、図書館で行う「おはなし会」、保育所・幼稚園・小中学校へ出向いて行う「おはなし配達」、職員が読み聞かせをする「もぐちゃんと絵本（旧こんにちは絵本）」にも力を注ぎ、読書活動の支援を行った。				
事業対象	市民（大人・子ども）、おはなしボランティア、学校・幼稚園・保育所の先生等				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		20	20	40
		内一般財源		20	20	40
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,472	2,764	2,000
		総コスト①+②		1,492	2,784	2,040
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	子ども向け講座	千円	20	0	20
		文学講座	千円	0	20	20
	事業 成果	子ども向け講座	人	1,236	1,111	1,200
		文学講座	人	50	66	80

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要	
評価の説明	大人対象の講座は、当市出身の歌人前川佐美雄が作詞した校歌22曲の展示、また、地誌『大和名所図会』に描かれた葛城市の名所旧跡とゆかりの人物について学ぶ講座を開催した。今後も葛城市を知るきっかけにつながるような講座を開きたい。 子ども対象の講座「昆虫のひみつ」は、冬に活動する昆虫のはなしと子ども達が実際に昆虫に触れる体験ができる講座を実施した。昆虫をテーマにした講座を開催するのは初めての試みであったが、子ども達に好評であったため、次回も検討したい。 乳幼児と保護者が参加する「おはなし会」と「もぐちゃんと絵本」は毎月の恒例行事で、当初は参加者数もバラつきがあったが、この数年、年間参加者数も300組前後で推移している。 また、イベントの後、参加したほとんどの子ども達が絵本や本を借りて帰るようになり、事業の成果が少しずつ現れてきていると感じる。			
事業の課題・問題点	乳幼児や小学校低・中学年の子供達は、図書の貸出やイベントに参加するために図書館へ来館するが、小学校高学年以上の子供達は、年齢が上がるほど来館者数が少なくなる。学生の「活字離れ」が問題になっているが、葛城市の図書館でも同じような状況が見られる。 また、図書館へ来られない方についても、どのような本があるのか本に関心を持っていただけるような取組を考えたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	子どもの読書推進を図るためには、ボランティアの協力が不可欠で、ボランティアの方々にも様々な事情があり、今以上の協力を願うのは難しいが、図書館職員のみでできるイベントを考えたところ特に親子での参加が増加。 平成30年度は「ブックカバー作り」、「クリスマスポップアップ作り」、「おひなさまモバイル作り」を実施し、和やかな雰囲気の中楽しく工作ができた。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	ボランティアの協力の必要性和、ボランティアの人材確保が複数年度に亘って課題となっている事業です。実際職員の負担が増加しております。しかしながらボランティア確保に向けての具体的な取り組みに不足を感じます。 子どもの読書推進を図るための取り組みは、十分成果が上がってきており評価できる。しかし、この市町村も抱えている年齢が上がるにつれての図書館離れがこれからの課題である。そのためにも市民のニーズを把握し、大人の講座の検討及びいろんな場面において図書館の啓発に取り組み、気軽に利用できる図書館を目指していただきたい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等	乳幼児・児童の利用はもちろんのこと、一般利用者に多数利用いただけるよう、利用者のニーズの把握に努め、図書館サービスの向上をはかりたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	赤ちゃんとも保護者が触れ合う機会をつくれるよう絵本を介して、行政と地域が連携して子育てを支援する。				
事業の内容	ブックスタートは、健康増進課の4ヶ月児健診時におはなしボランティアの協力を得ながら実施している事業で、絵本を楽しみながら赤ちゃんとも保護者がゆっくりと心ふれあうひとときを過ごす、そのきっかけ作りを支援する活動である。ブックスタートの際には、赤ちゃん一人ひとりに絵本の読み聞かせを行い、赤ちゃん絵本を1冊プレゼントしている。 また、2ヶ月児健診は「こんにちはえほん」と称し、保護者を対象にブックスタートの意義を説明し、保護者にも絵本の読み聞かせを体験してもらう取組を行っている。				
事業対象	4ヵ月児健診対象の赤ちゃんとその保護者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成２９年度決算	平成３０年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		291	239	181
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担		291	239	181
		人件費 ②		550	733	450
		総コスト①＋②		841	972	631
実績と 成 果	区 分		単位	平成２９年度実績	平成３０年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	ブックスタート	千円	291	239	181
	事業 成果	ブックスタート	組	291	316	300

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	4ヶ月児健診に欠席された家庭には、ブックスタートで配付している絵本やアドバイス集など一式を郵送し、必ず4ヶ月の赤ちゃんと保護者全てに届けている。また、配付している赤ちゃん絵本のリストは、合併以前から同じものを利用していたため、平成30年度は内容を一掃し、外注していた印刷も図書館で行うようにして、少額であるが印刷代を削減した。 ブックスタートの取組が、図書館で行う「おはなし会」や「もぐちゃんと絵本」の参加にも影響し、また、児童書の貸出冊数にも大きく貢献している。			
事業の課題・問題点	以前よりブックスタートに協力してもらうボランティア確保が難航。おはなし会でもボランティアを募っているが応募がなく、現状は図書館より職員2名が出て対応。このまま続けば先細りが懸念される。また、本事業は人的確保が急務で、ボランティア要請に係わっている課と連携しボランティア確保に向けて要検討。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	ボランティア確保が難航の本事業ではあるが、図書館職員が読み聞かせの練習を行なうことで日々のスキルアップと事業継続に努めており、結果、親子での利用及び貸出の増加にも貢献。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	優れた事業です。しかし、長期にわたりボランティア不足が訴えられています。ボランティアに頼らず図書館単独でも持続可能な手法が必要だと考えます。 この事業は、心豊かな人づくりにつながるとともに子育て支援に貢献しており十分成果が上がってきている。今後も行政と地域が連携して実施してください。また、この事業を継続していくためにもボランティアの確保及び育成に力を入れていく必要がある。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	本事業のおかげで、図書館を利用する乳幼児・児童(小学校低学年まで)とその家族が増加している。 今後も事業を継続していくうえで、必要となるボランティアの確保と育成に努めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	成人式式典事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	新成人が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。				
事業の内容	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、企画・運営等について協議を重ね、会場舞台設営や飾り付け等の諸準備も行うなどして、本事業を実施する。				
事業対象	新成人及び新成人関係者				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		977	997	1,000
		内一般財源		977	997	1,000
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		3,494	3,494	3,494
		総コスト①+②		4,471	4,491	4,494
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	977	997	997
		スタッフ会議	回	8	7	7
	事業 成果	参加者数	人	274	291	291
		対象者人数	人	374	390	390

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、新成人自身によるアイデア・企画・運営等について協議を重ね、会場舞台設営や飾り付け等の諸準備も行うなどして、本事業を実施する。 舞台上では恩師とのコラボレーションを実施し、新成人、恩師との掛け合いで当時は振り返りながらその当時に思いをはせることができ、感慨深い式となったと考える。							
事業の課題・問題点	新成人スタッフが中心となって企画運営を行っているが、出席したすべての新成人が共有できるような運営、構成が必要かと考える。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	次年度の実行委員予定者に前回の成人式を観覧していただき、次回の自分たちの成人式の参考にしていただく(平成31.1.14)
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	スタッフ不足の問題や、年次を超えたスタッフ間の引継ぎなど、数年かけて長期的な視点で課題をクリアしてきています。成人式をよりよい式にしたいという気持ちを感じ、職員の取り組みを評価しています。 本年度、行政側のスタッフの経験を活かし新成人のスタッフが活動しやすい雰囲気づくりに取り組んでいた記憶に残る新成人のための成人式であり評価できる。これからも目標達成に向けて取り組んでください。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	毎年、新成人が企画・運営スタッフとなるため、単一的な催しとはならないが、積み上げた過去の実績事例等、可能な限り情報提供や助言を行ってゆくとともに、実行委員会に先輩の経験を述べていただく機会を設定している。情報交換や新成人目線でのノウハウの伝達など行い、引き続き心に残る成人式となるよう企画運営、助言を行っていきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係 名	青少年健全育成事業	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。				
事業の内容	市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・PTA協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の5団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。 ①広報・啓発活動の推進(市広報誌への掲載・駅等での啓発活動) ②非行防止と環境浄化運動の推進(遊戯施設や花火大会等での巡視活動)				
事業対象	市内青少年				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		400	400	400
		内一般財源		400	400	400
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,801	1,801	1,801
		総コスト①+②		2,201	2,201	2,201
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	会議	回	6	5	6
		研修会	回	2	2	2
		巡視活動	回	3	2	3
		街頭啓発	回	3	4	4
	事業 成果	会議	人	78	63	70
		研修会	人	10	6	10
		巡視活動	人	62	27	60
		街頭啓発	人	78	114	80

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	学校教育に求める保護者のニーズも多様化しているなか、本協議会の活動の推進に当たっては気配りや配慮が重要となってくる。本会会員は限られた時間の中で互いに協力し、課題を直視するとともに寄り添いながらボランティア活動に努めている。長続きの可能な、かつ地道な活動を行うことが必要であると考えている。また青少年の生活支援をするための活動や啓発活動は市青少年健全育成が中心となって取り組んではいるが活動の困難さも垣間見れる。			
事業の課題・問題点	毎年7～8月の「青少年の非行・被害防止強調・強化月間」及び11月「子ども・若者育成支援強調月間」に同調した運動を展開し、街頭啓発活動や合同立入・巡回活動を実施している。近年、協議会の年間行事として定着し、多くの会員や市民の皆さんの理解と支援を受けている。しかしながら、青少年を取り巻く環境はこれまでもまして厳しく、また生じる事案も多岐にわたり、事案解決に向けての取り組みも難しくなっている。そのため、課題解決に取り組むとともに郷土愛や伝統文化を大切にした地域資源を発掘し、地域ぐるみで子どもの成長を育む活動を今まで以上に進めなければならないと考える。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成28年度から、子ども・若者サポートセンターが設置され、青少年が抱える様々な課題解決に対応するための施策(相談活動や自立支援活動など)を講じてきているが、今後はこれまで以上に、関係諸機関との連携を図りながら、新しい時代に即した支援に努め、地域の教育力向上の一翼を担いたい。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	インターネットの普及から20年、青少年を取り囲む環境は激変しています。現代ではSNS上でのイジメ、出会い系などの悪質サイトなど、青少年の危険性はアンダーグラウンド化し健全育成の成果を視覚でとらえることが難しくなっています。本事業は地道な活動の積み重ねが問われる事業でありますが、残念ながら加速度的な時代の流れに追いついていないようには見受けられません。今、最も注目される分野の事業でありますから、さらなる発展を願っております。 この事業は、5団体で組織され地域への情報提供・巡視活動・啓発活動に取り組んでもらっている。しかし、地域ぐるみの活動までには至っていない。子ども・若者サポートセンター及び市内のいろんな団体やグループに、情報の共有が出来るよう情報発信の場を持つ必要がある。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	青少年健全育成協議会構成の5団体それぞれ、限られた時間の中で互いに協力し、課題を直視するとともに寄り添いながらボランティア活動に励んでいただいている。持続可能で地道な活動を行っていくことが重要であると考えている。学校、市内外の関係機関、生涯学習課と情報を共有し、各地域における関係団体とも連携ができるよう取り組んでいきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。				
事業の内容	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネーターを設置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動等を中心に支援を行っている。				
事業対象	市民及び市内小中学校教員				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度決算見込み	令和元年度予算	
		事業費 ①	2, 597	2, 974	2, 974	
		内一般財源	866	1, 432	1, 432	
		内国・県補助金	1, 731	1, 542	1, 542	
		内受益者負担				
		人件費 ②	2, 242	2, 242	2, 242	
		総コスト①＋②	4, 839	5, 216	5, 216	
実績と 成 果	区 分	単位	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度実績	令和元年度(目標)	
	事業 実績	運営委員会に係る経費	千円	340	391	391
		教育支援活動に係る経費	千円	2, 257	2, 583	2, 583
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	環境整備を中心の支援から、食育やミシンなど家庭科支援、登校支援、学校行事への参加等、協力いただいている。また、コーディネーターには連絡会議を定期的に行い、常に情報交換を図りながら学校間の交流、協力関係も築いている。			
事業の課題・問題点	新たな地域コーディネーターの育成と、ボランティア登録数の拡充、取組の地域への発信が課題である。メディアを活用してさらなる情報発信に努め、地域との協働をさらに図っていきたい。			
評価を受けての改善点(過去3年間)	コーディネーター間の連携を密にし、積極的にお互いの学校の情報共有を図ることで、事業内容の把握に努め、協力推進を図っている。			

(有識者意見)

有識者意見	市外からも評価される優れた事業です。近年はコーディネーターの高齢化への対応が問題となりましたが、世代交代も徐々に進んでいます。コーディネーターの人柄と力量に大きく依存する事業であるので、次代のコーディネーターの人材発掘とボランティアの確保に、学校やPTAと共に取り組んでいただきたいです。 地域とともにある学校を目指すためにもこの事業は重要であり、活動内容も多様化してきており、地域住民と子どもたちとの交流が深まり成果が見られ、充分評価できる。しかし、コーディネーターが中心となって活動していくので、今後コーディネーターの発掘及び育成に力を注いでいくことが重要である。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	学校、保護者、地域の連携が相当程度深まってきたと考えている。引き続き事業を実施していくとともに、地域コーディネーター間の情報交換や連携などをさらに深め、また、地域ボランティアの方々の理解、協力をいただきながらより効果のある事業としてすすめていきたい。継続の一番の課題は人材であり、現在のコーディネーターの後継者を育て、協働していくことがこの事業が広く周知され継続されることと考える。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年2館指定)が、1年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。				
事業の内容	①平成30年度モデル分館として指定を受けた兵家分館及び當麻分館（大橋分館）による生涯学習活動発表 ・伝統文化の紹介、地域文化継承及び文化資源の保存等や地域防災活動の取組 ・花いっぱい活動や講座・教室等を通じた区民の交流の機会・場づくりを目指した取組 ②モデル分館指定を受けている2分館による絵画、写真等の展示 ③市内小中学校児童・生徒による学校での体験学習や生活発表的な作文の朗読 ④菊花展表彰式				
事業対象	市民				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度決算見込み	令和元年度予算
			事業費 ①	500	500	500
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	500	500	500
			人件費 ②	2, 506	2, 242	2, 242
			総コスト①＋②	3, 006	2, 742	2, 742
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	参加人数	人	511	592	600
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成30年度にモデル分館と指定された2館による、各地域における伝統文化や催事の取組等の紹介が行われ、生涯学習活動を通じて地域住民の交流を図る良い機会となっていることに加えて、小学生による演奏会、小中学校生の作文発表や文化団体の表彰など、貴重な体験発表をすることができる機会を得る事業と考える。			
事業の課題・問題点	本年度についても例年どおり輪番での2館で予定しているが、当該分館ならではの特別な事業を行うのではなく実情に応じた発表をしていただくようお願いしている。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	年度当初に指定した分館へ説明会に赴き、過去の分館の発表等を紹介しながら地域住民が伝統行事や歴史、生活様式などを通じ、希薄になりつつある地域住民と目標を持って取り組むことの重要性を理解していただき共通した充実感を味わってもらえるよう指導する。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	旧新庄町で平成元年度より始まり、令和4年度で市内全ての分館がモデル展示を終える予定の事業です。地域のネットワークが薄れる現代において、地域交流を生み出すきっかけともなる事業で、一定の効果を見いだすことはできます。しかし、もう一巡するとなると、30～40年後の地域のあり方、分館の役割まで見通しての事業再構築が必要です。令和5年度以降を見据えた検討が必要な時期になっています。 この事業のメインであるモデル分館の生涯学習活動の発表が、令和4年ですべての分館の発表が終わる。地域住民の交流の場になっているのは確かなことであるが、今後継続して実施するのか、アンケート調査等で住民のニーズを把握し、来年度から検討していく必要がある。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	モデル分館の生涯学習活動の発表が、令和4年ですべての68分館の発表が終わる。地域住民の活発な交流の場になっているとは考えているが、今後継続して実施するのか、アンケート調査等で住民のニーズを把握し、理事者とも協議を重ねて検討していく必要がある。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	葛城アートフェア事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	葛城市の芸術文化のより一層の振興を図るとともに、芸術文化を通じ市内外の住民の交流・地域の活性化を図り、「魅力あるまち葛城市」の発信を目的とする。				
事業の内容	葛城市の文化遺産・展示施設に一般公募の芸術作品を展示し、葛城市を美術館化する試み。アートを通じて広く葛城の魅力を発信するイベントを行う。				
事業対象					
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		7,017	3,000	3,000
		内一般財源		3,538	3,000	3,000
		内国・県補助金		3,479		
		内受益者負担				
		人件費 ②		5,868	5,604	5,604
		総コスト①+②		12,885	8,604	8,604
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	7,017	3,000	3,000
	事業 成果	来場者数	1 日当	1,543	1,391	1,400
		総入場者数	5 日間	7,719	6,695	7,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	4回目を迎えて市単独事業となった今回、限られた予算の中で従前の事業内容を踏襲した形となった。出品状況等は横ばいであるが、市内外での周知は高まってきており、開催日時の問い合わせ等が多くある。			
事業の課題・問題点	実行委員会を立ち上げ当初より活動していただいているが、回数を重ねるごとに事務局での担当する部分が大きく、引き続き開催できる事業にするには住民自らが参加、参画できる体制に移行していく必要がある。他イベントとのコラボレーションについては、宣伝効果は高まるが、事業の趣旨が各々異なる市独自のイベントであるため、共催は難しいと考える。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	市民の出品、参加をはかるため各小中学校や各種団体など各方面に更なる働きかけをおこない、市内掲示板などへのポスター掲示、あわせてHP、広報等周知を推進していく。
-----------------------	---

(有識者意見)

有 識 者 見	平成30年度より市単独事業となり、今後の方向性を見定める時期に入っています。イベントとしての市外からの認知度は上昇していると感じますが、市内住民の関心については横ばいという印象があります。市の大きなアピールポイントとするか、市民の美術発表会に留めるのか、5年後10年後を想定した事業展開が必要であると考えます。 本年度市単独事業となったが、去年度と同じ内容で実施でき、事業目的である「魅力あるまち葛城市」の発信は、おおむね達成でき評価できる。また、成果が上がり認知度も高まってきている状況なので今後とも「魅力あるまち葛城市」の発信に取り組んでいただきたい。
---------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	30年度より市単独事業となったが、予算に見合った形で昨年度とほぼ同じ内容で実施でき、事業目的である「魅力あるまち葛城市」の発信は続いている。ただ、認知度も高まってきている状況のなかで今後において、葛城市のアートフェアの開催目的を再考しながら、長く求められるイベントとなるよう検討を重ねていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	公園まつり実行委員会業務	担当課名	中央公民館
係 名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。			
事業の内容	葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会および区長会をはじめとする約21団体の協賛により屋敷山公園一帯で野外イベント（太鼓や踊り、ジャグリングパフォーマンスショー、ヒーローショー、演劇、フラダンス、吹奏楽等）を実施するとともに、模擬店、フリーマーケットの出店、盆栽の展示即売会、似顔絵、古本市にニュースポーツなどを同時に行う。			
事業対象	市内地域対象住民			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ① (千円)		1,500	1,500	1,500
		内一般財源(千円)		1,500	1,500	1,500
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		2,635	2,563	2,115
		総コスト①+②(千円)		4,135	4,063	3,615
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	1,489	1,465	1,500
		企画運営委員会	回	1	1	1
		実行委員会	回	1	1	1
	事業 成果	参加人数	人	10,000	8,000	10,000
		協賛団体	団体	21	21	21

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成25年度から毎年5月3日開催に固定したことにより、市民のみならず市外の方々にも定番行事として広く知られるところとなり、多数の来場者で賑わった。また、終日好天にも恵まれ、野外イベントをはじめ模擬店、フリーマーケットも大盛況で、非常に盛り上がった。			
事業の課題・問題点	昭和50年から40年近く続いている伝統ある事業であるが、毎年の開催であるため、文化活動の発表の場を確保しながら集客できるイベント内容にする工夫が必要。 また、協賛願っている各種団体の方々には、公園まつりの他の催し物等にも参加して楽しいひと時を過ごしていただけるよう、運営体制を改善していかなければならない。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成24年度から中央公民館に事務局が置かれたことで、準備作業がスムーズに行えるようになった。また、駐車場を増やすことで交通渋滞も解消された。 実行委員会が中心となり、関係団体がより良くする工夫をしている。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	近年、マンネリ化が課題に挙がっています。良い意味では市民の定番の行事になっているということと捉えることもできます。市民の発表・交流の場という面を念頭に施策目標に掲げる「市民文化を形成する」という面で、現状の実行委員会組織を活かして老若男女問わずさらに多くの市民が参画できる公園まつりに発展できると思います。 定番行事として、市民も楽しみにしている事業である。毎年、実行委員会が主体となって関係団体に働きかけ円滑に事業が実施され充分評価できる。しかし、多くの来場者で賑わうため、パンフレット等に救護の場所や緊急時の連絡先の記入をするなど、不慮の事故等に対応できる体制づくりが必要であり、危機管理に対して今まで以上に各種団体との意思統一が大切である。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	事業のマンネリ化を防ぐために引き続き実行委員会が主体となって、来場者のニーズを把握し、工夫をすることにより、施策目標の「芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する」ことを推進し、定番行事である公園まつりを継続させていきたい。また、多くの来場者に来ていただいているため危機管理体制について十分に協議し、救護の場所や緊急時の連絡先を周知させること等により、安全管理に努めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	中央公民館（當麻文化会館）
係 名	地区館係	施 設 名	5 地 区 館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。				
事業の内容	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味や興味を同じくする人びとが身近な地区館に集い、学習する活動を支援するとともに交流を深める機会を提供する。 疋田、忍海、北花内、磐城、當麻の5地区館で絵画等13教室、俳句の1講座を開講し、教室は6回～20回の実施、講座は4回実施で開講している。 開講にあたっては、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』に掲載し、受講生の募集を行っている。				
事業対象	市内 在住・在勤者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①	(千円)	1,150	1,160	1,214
		内一般財源(千円)		1,150	1,160	1,214
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		1,274	1,241	1,241
		総コスト①+②(千円)		2,424	2,401	2,455
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	各種教室・講座	総回数	133	133	137
	事業 成果	参加人数	人	224	250	228
		のべ受講者数	人	1,835	1,955	2,397

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない	
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	身近な地区館・分館において生涯学習教室・講座を開催することで気軽に参加受講でき学習意欲の向上と生涯学習の進展に大きく寄与している。料理・絵手紙・太極拳・パッチワークの4教室で講座開始後、及び終了前のそれぞれ15分～20分間程、また、書道・ちぎり絵の2つの教室については終了までスタッフが同席し講師とも協力のうえ教室の支援をきめ細やかに行うとともに、受講者のニーズの把握に積極的に努めてきた。受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもちながら「学ぶ」という共通項のもと人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果があがっている。							
事業の課題・問題点	毎年継続して受講しておられる方が多数あり、教室・講座での学びを楽しみにされている。同時に学び仲間ができ、その方たちとのふれあいにも楽しみにされている。一方、新しい受講者と習熟度に違いが生じている教室・講座もある。また、新講座・教室開設や実施回数の増加等の要望もあるが、受講者数が見込めるのか、予算と場所の関係などもあり、引き続き検討課題事項である。定員をオーバーした教室・講座もあるが、いずれも僅数であり、講師の好意と受講者の理解により実施することができた。受講希望者増にどう対応していくのか、今後の課題点である。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成29年度、絵画教室の講師の変更をし、絵画教室の再スタートを図った。北花内の書道教室を閉じ民謡教室を新しく開講した。平成30年度、受講者の学びのニーズに応えるべくパッチワーク教室の学習回数の増加を図った。北花内で茶道教室を閉じ、生け花教室を新しく開講した。令和元年度は、俳句講座の回数を昨年度までの4回から6回に増やし、受講者のニーズに応じていくようにしている。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	講座の改変などを適宜行っていて、参加者数も毎年高い水準で推移しており順調な事業だと思われます。ただし、市内遠方の参加者が講座を受講しやすいかとなると、施設の駐車場や立地などから難しい地区館もあり、開設講座数も5館の差が気になります。立地する地域のニーズと市内全住民の公平性と、バランスが必要かもしれません。 本年度も新講座を開設したりしてマンネリ化をなくすなどの取り組みがなされ一定の成果が見られる。しかし、毎年各公民館によって各教室や講座数の偏りがあり、地域住民が気軽に参加でき、学習意欲の向上と生涯学習の進展に寄与していくための身近な地域の公民館になっていないように思われる。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☒	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	市内の身近な5地区館で教室・講座を開催することにより、気軽に受講いただき生涯学習の発展に寄与していただいているが、現状施設を活用させていただいていることもあり、立地等の条件で施設により受講者数に差があることは懸念しているところです。今後も地域のニーズと市内全住民の公平性も考慮し、バランスよく生涯学習の機会に接していただけるように工夫しながら改変していきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	中央公民館・當麻文化会館
係 名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱		壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～						
	政策目標		生涯学習による豊かな心の涵養						
	施策目標		芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する						
事業の目的		市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。							
事業の内容		『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第3条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。 1. 中央公民館では、 6 教室 成人4：華道、きもの着付け等、子ども2：絵画、茶道 24 講座 成人14：菊づくり、ガーデニング、暮らしのマナー 等 子ども10：親子クッキング(土・日)、親子お菓子・パンづくり(土・日)、親子陶芸(土・日)、野外活動体験 等 2. 當麻文化会館では、 25 講座 成人20：絵画、男の食卓等(9)、1日講座(5)、パソコン講座(6) 子ども5：親子おもしろ工作、寺子屋、葛城塾 を開講。 開講にあたっては、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』 において、市民に周知するとともに、受講生の募集を行っている。							
事業対象		市内在住者・在勤者							
事業年度		■	区分指定無		□	平成	～	平成	間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ① (千円)		3,935	4,263	4,673
		内一般財源(千円)		3,935	4,263	4,673
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		10,497	10,268	9,189
		総コスト①+②(千円)		14,432	14,531	13,862
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	中央公民館	謝金	2,722	2,973	3,347
		當麻文化会館	謝金	1,213	1,290	1,326
		合計	謝金	3,935	4,263	4,673
	事業 成果	中央公民館	受講者数	3,533	3,821	4,314
		當麻文化会館	受講者数	1,690	1,705	2,494
		合計	受講者数	5,223	5,526	6,808

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	学習の促進とふれあいの場を提供することを目的に、成人・子ども・親子を対象とした各種教室・講座を実施している。 成人講座では、華道、茶道、料理、着付け、ヨガ、パソコンといった 趣味や教養を活かした講座を、子ども・親子講座では「作る楽しさ」を学ぶ、料理やパン・菓子づくり、陶芸を開催した。 また、夏休みには子ども向けのイベント講座として、野外活動体験、寺子屋を開催しており、どの講座も人気で、受講者の受講意欲や関心が非常に高く、親子対象講座を中心に多くの講座が抽選となっている。							
事業の課題・問題点	教室・講座は受講料が無料(教材費等は受講者負担)のため安易に捉えられる向きがあり、同じ教室や講座を毎年受講される方が見受けられる。パソコン講座では、現在使用しているパソコンが古い機種でWINDOWS 7 から10への更新できないため、本年度で現在のパソコン講座を閉鎖する。来年度に向けパソコン講座に関連した新たな講座の開設を考えていく必要がある。講師の高齢化(健康面)、応募者の数の減少や高齢化など問題点がある。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成29年度は、布花講座と1日講座のランプシェード講座に替わり、ヨーガ講座を2講座(前・後期)に増すとともに1日講座として、たのしいマジックショー講座を設けた。また、パソコン講座の後期募集をやめ、前期を通年として平成30年度は、1日講座のうち竹細工講座以外の4講座を廃止し、新たに4講座を設けた。定期講座では、応募の少なかったドイツ装花講座を廃止し、はじめてでもできるマジック講座、体と心の健康体操を設けた。令和元年度は、新しい講座の開設を望む声を反映して、1日講座に四季からの和菓子講座を増やした。パソコン講座については、今年度は平成30年度と同様に行う。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	市内2カ所(新庄・當麻)で様々な講座を実施し、生涯学習の機会を広く市民に提供しています。講座内容も時代とニーズに応じて改変が頻繁に行われています。 市民の学習ニーズを的確に把握して、教室・講座の精選を行い、誰でも気軽に参加できる教室・講座の実施に取り組み、今後いろいろな情報を収集し、学習活動の支援に取り組んでください。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☒	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等	今後も教室・講座の参加者動向を把握し時代とニーズに応じて改変していくことにより、誰でも気軽に参加できる教室・講座の実施に取り組み、生涯学習の機会を広く市民に提供し、学習活動の支援に取り組んでいきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	文化振興事業	担当課名	新庄・當麻文化会館
係 名	総務係・文化会館係	施 設 名	新庄・當麻文化会館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。				
事業の内容	魅力ある文化芸術鑑賞事業・市民参加型事業を展開することにより、良質な芸術・文化に触れる機会や、自ら参加する喜びを体感する機会を市民に提供し、地域の文化水準の向上に寄与することを目的としている。 平成30年度は、新庄文化会館ではミュージックコンサートとして「財津和夫コンサートwith姫野達也～happy together～」を開催すると共に、3年振りのオーケストラコンサートとして「ドラゴンクエストスペシャルコンサート」を開催。また、「林修講演会」「吉本新喜劇&バラエティーショー」等、様々なジャンルの自主事業を実施した。更に、市民参加型事業として、毎年恒例の「J-POPのど自慢大会」、市民劇団「風塾」定期公演を実施。 當麻文化会館では、ファミリー向けの心温まる作品を上映する映画鑑賞会の他、市民参加型事業として、當麻太鼓「白鳳座」や市民劇団「ロリポップ」「くすのき」等が出演する「夕涼みコンサート」、「開館30周年記念コンサート」、「クリスマスコンサート」、「市民劇団『くすのき』定期公演」を実施した。				
事業対象	市民及び近隣市町村の住民				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	平成２９年度決算	平成３０年度決算見込み	令和元年度予算	
		事業費 ①	27,306	23,799	18,119	
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	15,754	15,338	10,943	
			0	0	0	
			11,552	8,461	7,176	
		人件費 ②	8,694	9,892	10,718	
		総コスト①＋②	36,000	33,691	28,837	
実績と 成 果	区 分		単位	平成２９年度実績	平成３０年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	自主事業入場料	千円	11,552	8,461	7,176
		自主事業委託料等料	千円	27,306	23,799	18,119
	事業 成果	自主事業入場数	人	4,979	4,514	5,900
		自主事業 (有料)開催数	本	4	4	5
		自主事業 (無料)開催数	本	7	7	7

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	新庄文館では、30年度試みとして、著名人の講演会を開催したところ、大変反響があり、満席となった。今後、シリーズ化して旬な著名人を招いて講演会をしていく予定である。當麻文館では、会館30周年記念として當麻文館で誕生した白鳳座や関連の団体の太鼓のコンサートを実施。たくさんの来客があった。恒例となっている夕涼みコンサートや、クリスマスコンサートも楽しみにしてくださっている方々もおられ、市民が手軽に文化や芸術と触れあえる機会として大変有意義なものとなっている。			
事業の課題・問題点	有料の自主事業については、市民ニーズの把握が難しいことに痛感した。人気のドラゴンクエストのコンサートを開催したが、市民のニーズは、低かった。10年ぶりに吉本新喜劇と漫才を開催したが、これも市民のニーズは低かった。しかし、両方とも来客の反応は良く、とても感動した、おもしろかったとの感想が多かった。いかに、市民に、周知するかも大切なことで、今後の課題である。また、市民ニーズの把握は、さらに難しい課題ではあるが、努力していきたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	ポスターチラシの掲載場所の発掘や、タウン誌のなどの無料広告を利用して多方面に周知し、宣伝効果を上げることで集客につなげることが出来た。また、自主事業公演時に毎回アンケートを実施した中で、要望のあった、著名人の講演会を30年度に実施。講演会は、大反響で、チケットも完売となった。この企画をシリーズ化していく予定である。このように市民のニーズを把握し、チケットが完売となるような自主事業を企画できるように努力をしていく。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	「一流の芸術文化」と「市民が作り出す文化」の両面を発信する事業です。課題・問題点には市民ニーズの把握が難しいとありますが、これは一般的にどのようなイベントであっても同様の困難がありますので、色々なものを試し続けるということが重要です。 本年度もアンケート等で市民のニーズを把握し、事業内容を検討するとともに啓発活動にも力を入れ、十分評価できる。今後、安定した集客数の確保に向けて「友の会」の会員募集についての取り組みにも力を注いでいくことが重要になってくる。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	安定した集客数の確保に向けて「友の会」の会員特典をより充実させられるよう検討し、会員の増員に取り組む必要がある。また、市民ニーズの把握のための情報収集やアンケートの手法を工夫し、自主事業の内容が偏ったものにならないよう、柔軟な企画を心掛けたい。 啓発活動の面では、従来の紙媒体における広報も大切にしつつ、HPやSNS等若い人向けの媒体も積極的に利用し、幅広い年代の方に興味を持ってもらえるよう努めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的	近年、市民の地域の歴史・文化に対する関心が薄くなってきており、また知る機会も少ない状況にあることから、合併により生まれた葛城市の歴史や伝統文化を伝えていく必要がある。この葛城地域の歴史文化を特別展や常設展などの展示会を通してわかりやすく解説・紹介し、市民の愛郷心を育んでいくことを目標としている。				
事業の内容	展示会（年間企画展2回・特別展1回）の開催、展示図録等の発行。				
事業対象	市民等来館者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		2,248	2,547	3,633
		内一般財源		1,348	1,764	2,733
		内国・県補助金				
		内受益者負担		900	783	900
		人件費 ②		10,587	10,587	10,587
		総コスト①+②		12,835	13,134	14,220
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	入館料	円	370,080	328,490	330,000
		図録売上	円	529,900	454,450	460,000
	事業 成果	入館者数	人	4,533	4,030	4,600
		図録売上	冊	1,338	987	1,100

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	博物館の主要事業として、葛城に関するテーマで特別展・企画展など年3回の展示会開催を行った。入館者数は、前年に比べ若干減となった。また、学芸職員の体調不良により突然の長期休業となったことから、予定していた展示会開催計画推進に大きな支障となり、企画展図録刊行ができなかったこともあるが、もう1名の学芸員の努力と館内職員一丸となって博物館展示会開催業務に取組んだことから、特別展等の開催をはじめ年3回の展示会を開催し、多くの入館者に葛城の歴史文化に関心を寄せてもらうことができた。			
事業の課題・問題点	平成30年度の本事業については、企画展実施担当者が急遽長期休暇となり、展示会の開催に大きな支障をきたしたという問題点がある。本館の学芸員については、それぞれに専門的な分野での特色を生かし、他の職員には代わることのできないその独自の専門的能力と前年からの調査研究を積み重ねたうえでの展示会となることから、担当者が急に不在となった場合、他の職員がスムーズに代理として対応できるものでない実状もある。今後の当該事業の運営において、当該学芸業務対応可能な専門職員の増員をはかり、後継者を育成するなど人事配置についても十分に検討が必要である。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	先にも述べたが、企画展示の担当者が体調事情により急遽長期休暇となったことから本事業実施において、大きな支障となった。人事的要因の大きい問題であるが、公的博物館の展示会業務の教育普及的な質の低下をきたさぬよう、将来的状況をふまえ後継者を育成するなど人事配置についての改善が必要。
-----------------------	--

(有識者意見)

有 識 者 見 意	専門分野の職員の欠員が即、業務の支障に繋がった年度となりました。専門職員を新たに雇用・育成することも重要ですが毎年課題に挙がるように困難であるならば、博物館ネットワークを構築し、人材交流を促すことで展示の幅も広げ、歴史博物館の新しい可能性を生み出すという手法も考えられるのではないのでしょうか。 市民が地域文化等にふれ、愛郷心を育むためにもこの事業は必要である。また、工夫を凝らして展示会を実施し、安定した観覧者数を維持されていることは評価できる。これからも啓発活動に力を入れ、目標達成に向けて取り組んでいただきたい。
-----------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等	博物館主要事業である企画展示をより多くの方々に観覧いただくために、今後においても様々な工夫を凝らした展示会の開催に努めるとともに、来年度の開館20周年に向けて、より独自性を持ったPRに努めたい。また、すでに情報交換を行っている博物館ネットワークについては、さらなる情報収集を図り、将来にはそれぞれの地域の個性と魅力を発信できる共同企画が開催できるよう交流を深めていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～		
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり		
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る		
事業の目的	歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。			
事業の内容	葛城地域の歴史文化や新しい歴史研究の成果について本講座において、わかりやすく紹介することにより、地域の歴史文化への理解を更に深めると共に、市民の愛郷心を育むことを目標に歴史文化講座「葛城学へのいざない」を年間14回にわたり開催。			
事業対象	市民等来館者			
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		150	60	300
		内一般財源		150	60	300
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		950	950	950
		総コスト①+②		1,100	1,070	1,250
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	講師	人	13	14	13
		講師報償費	円	150,000	60,000	300,000
	事業 成果	参加者数	人	1,207	1,324	1,400

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成30年度の講座開催について、「葛城」に関係するテーマで歴史文化講座を年14回にわたり開催した。参加者数は、前年に比べ増加がみられた。当公開講座を毎月継続開催の希望者も多く、概ね市民ニーズ・施策目標実現に貢献及び目標達成できていると考えられる。また当事業の主な経費の講師謝金も、当博物館職員が講師を務めるなど、経費削減に取組み、限られた予算の中で最適な外部からの講師の選定にも努めている。			
事業の課題・問題点	2000年11月の開館以来、葛城に因む話題で十数年間講座を開催してきたことから、年間十数回の講座開催計画における話題準備及びそれに伴う講師の選定に苦慮しているが、当講座の取り組みこそが、当館の特色であり、困難はあるものの他館にない独自性であることからこの方向で継続していくためにも、葛城の歴史における新しい学説や新規講師について、平素からリサーチを続けることなども課題といえる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	本事業において、市の緊縮予算にもかかわらず本事業の有益性や成果が評価され、例年どおりの事業予算確保もなされている。過去の評価結果をふまえ、講座内容や講師の選定等について更に検討し、昨年に引続き特別展・企画展担当職員の講演回数も増やし、受講者の郷土史に対する興味がなおいっそう深まるような講演会の開催を計画し、工夫を凝らした。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	「葛城学」という分野が成立するほど葛城市には深い歴史があるということで、講座にも市内外から施設のキャパシティに適した人数の参加者が毎回来訪しています。予算的にも低予算で実施されており、歴史博物館ならではの適切な事業であると思います。 市民のニーズを把握し、興味・関心を高めるような講座や事業について検討するとともに経費削減に取り組み、実施されており評価できる。これからも、工夫を凝らし興味のない市民への関心を高めるために取り組んでください。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての担当課意見・数値目標等	葛城市の歴史文化と伝統が保全・継承されるよう、郷土の歴史文化に焦点をあてた講座等の開催を継承していくとともに、これまで当講座に興味のなかった市民に対しても、幅広い視野で捉えた講座内容となるよう工夫し、郷土愛がさらに深まるよう情報発信と普及活動に努めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	教育総務課・歴史博物館
係 名	文化財係・歴史博物館	施 設 名	教育総務課・歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～		
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり		
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る		
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。			
事業の内容	市内遺跡内で開発工事が行われるのに際し、市民等より事前に提出される発掘届出書を県教委へ進達する。それについて県教委から通知される指導事項に従い、市の担当職員が現場にて発掘調査や現場立会等を実施し、調査結果終了報告書等を作成し、県教委へ提出する。また、市内遺跡の範囲確認・保護等のための発掘調査や、記録保存等のための発掘調査を市教育委員会が主体となって実施し、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・県へ報告すると共に各研究機関にも配布し、埋蔵文化財の保存・研究・活用のために資する。			
事業対象	一般事業者・市民			
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		2,000	2,000	2,000
		内一般財源		500	500	500
		内国・県補助金		1,500	1,500	1,500
		内受益者負担		0		
		人件費 ②		3,352	3,352	3,352
		総コスト①+②		5,352	5,352	5,352
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	調査事業	件	9	10	10
		立会等	件	14	4	10
		届出(通知)	件	69	61	60
	事業 成果	調査地	場所	茶山古墳	地光寺跡	地光寺跡

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	埋蔵文化財発掘調査事業については、開発に伴う緊急調査とは別に、市内における重要な埋蔵文化財包蔵地(遺跡)の分布範囲確認やその遺跡の性格を把握するなどし、その遺跡を保護するため、国・県の補助(75%)を受け毎年継続的かつ継続的に、定額予算にて実施している。平成30年度においては、笛吹地内の古代寺院跡である地光寺西遺跡の北部地点についての範囲確認調査を実施し、当該地点には遺跡の主要な遺構が存在しないことを確認するなどの成果を得た。			
事業の課題・問題点	市内には竹内遺跡や屋敷山古墳をはじめ多くの有名な遺跡が市内各所に点在しているものの、現在、埋蔵文化財の発掘調査に対応できる職員は1名で、しかも歴史博物館の学芸員業務と兼務であり、埋蔵文化財の調査・研究に対応できる時間も限られており、県内他市町村に比べ埋蔵文化財保護行政のうえからも、非常に不十分でお粗末な人事配置状況であることが、本事業実施についての課題・問題点である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	業務内容について、限られた経費と時間で最大の成果が得られるように、事業の実施に向けて取組んでいるところである。有識者から葛城市の文化財を保護する為、「後継者の育成も含め、市の発展に応じた人材配置が望ましい。」など、提言もいただき、調査業務に対応できる技術職員の増員も要望を行っているが、このことについての改善はできていない。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	建設業者からの発掘届出書に応じて適宜実施する業務と、市の史跡を単独事業として調査する業務の二面性を有している事業です。30年度は学芸員ネットワークを活かし、檀原考古学研究所と初の連携をとって事業を行ったということで、人員不足に対する一つの糸口になればと期待しています。将来的に文化財を保護していくためには、人事面において専門職の育成及び人員の増加は最優先課題である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等	埋蔵文化財の発掘調査については、本市のまちづくりに欠かせない事業である。調査業務に携わることができる専門の職員が1名という現状については、業務を執行するうえで大変困難な面が多いが、継続して、人事面で理解を求めていくとともに、関係機関との連携を図りつつ、業務の効率化並びに計画的に事業が進められるよう努めていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。				
事業の内容	在住・在勤者を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各教室を開催する。幅広い年齢層のスポーツニーズおよび教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。 年齢や生活環境に適した幅広い市民のスポーツ人口の増加推進に努める。また、親子テニス教室や親子体操教室のように親子でふれあえる教室のニーズが高まっているので、さらに充実していく。 また、今後は総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」に移行して実施することも考えている。				
事業対象	教室・講座受講者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		1,708	1,141	1,302
		内一般財源		1,708	1,141	1,302
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,286	2,220	2,220
		総コスト①+②		3,994	3,361	3,522
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	小学生	千円	1,022	728	882
		一般	千円	420	140	140
		親子教室	千円	266	273	280
	事業 成果	小学生	人	214	180	190
		一般	人	75	15	20
		親子教室	組	26	31	40

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	以前より、ジュニアを対象とした体操・テニス・サッカー教室をはじめ、親子を対象としたふれあい体操・テニス教室は人気があり、定員を超過する教室もある中、講師の方々の工夫により、申込者全員を受け入れて教室を開催している。 親子のふれあいの機会づくり、幼児から高齢者まで、運動を始めるきっかけとなり、すべての教室生の体力向上、健康増進に繋がっている。			
事業の課題・問題点	多種多様化するスポーツが増える中、年々施設の利用件数が増え、会場の確保が困難になっている。教室の開催日、開催時間を含めて今後検討していく必要がある。 また、受益者負担で教室等を実施している「スポーツクラブ葛城」との住み分けが必要だと考えられる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	総合型地域スポーツクラブに移行が進む中、教育委員会主催の教室のあり方が難しくなってきました。いずれはスポーツクラブにスポーツ教室の完全移行を目指してはいますが、スポーツクラブの教室はまだ始まったばかりで軌道にのるにはしばらく期間が必要です。ご意見の通り、人気有り無しという考え方ではなく、運動のきっかけづくりを教育委員会主催の教室で、更に充実した内容の教室をスポーツクラブ主催の教室でと考えております。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	スポーツ初心者優先、無償での機会提供を行う事業です。市民にとっては有り難い事業ですが、葛城市以外では有償化が普通となっており、ある程度の受益者負担の検討、もしくはスポーツクラブ葛城への移行を加速しても問題無いと考えます。 この事業は、将来的には総合型スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」に移行する必要がある。そのためにも、事業の目的を再確認することによって、事業内容を再検討し、スムーズに移行できるよう取り組んでいくことがこれからの課題である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	スポーツクラブ葛城への移行と平行して、教育委員会主催の教室の有償化を行うと利用者の混乱を招く可能性があることからスポーツクラブ葛城へ移行した時点で受益者負担としていく方針です。 スポーツクラブ葛城への完全移行を目指しているところではありますが、現状では受け入れ態勢が整っておらず、移行を加速させることは難しいと考えます。ただし、スポーツクラブ葛城のスタッフ増員等の環境が整った段階では速やかに移行していきたいと考えております。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	新庄第1県民運動場他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり		
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進		
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し市民の参加を促す。			
事業の内容	市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。 市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。			
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		4,548	4,548	4,548
		内一般財源		4,548	4,548	4,548
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		5,111	5,525	5,525
		総コスト①+②		9,659	10,073	10,073
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	大会事業費	千円	4,548	4,548	4,548
	事業 成果	大会参加者数	人	9,019	8,855	10,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	全体参加者数は横ばい状態であるが、競技種目によっては、参加者数が減少傾向にある競技も少なくなく、参加の条件やルール等の見直しを行い、より多くの方が気軽に参加できるように、平成30年度より一部種目の変更を行っている。今後更に団体と協議し大会運営を行っていく。			
事業の課題・問題点	市民体育祭について、一部の地区から事業の見直しを検討してほしいと要望があるので、平成31年度はプログラムを見直し、レクリエーション中心とすることで参加しやすい内容となる様、プログラム編成委員会で検討する必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	年々レクリエーション的な要素を含んだ大会に移行できるように体育協会と協議し、近年少しずつありますが、種目の変更や、参加しやすいように規則の緩和などを行っています。今後も体育競技会というよりは、スポーツレクリエーションという考え方で、市民体育祭を含め検討し、気軽に参加できる事業を増やしていきたいと思っております。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	「スポーツの試合」から「スポーツを通したレクリエーション」に移行しようとする途上にあります。すでに一部の競技には改変の努力をしていますが、今後も各大字と適宜話し合いを重ね、市民のニーズに応じた競技の選定や参加形態に随時改める必要があります。 競技種目については、市民のニーズをアンケート等で把握し、それをもとに各種団体と協議し参加の条件やルール等の見直しを行い、市民が気軽に参加できるような大会になるよう企画・運営に取り組んで実施され評価できる。これからも多くの市民が参加できるスポーツ大会に取り組んでいただきたい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への 反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	引き続き、各大字や各種団体と協議を重ね、市民のニーズを把握し、より多くの方が気軽に参加していただける大会企画及び運営を検討していきます。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	体育施設の管理運営事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	体育施設の安全で効率的な管理および運営				
事業の内容	体育館 4カ所（当麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館） 運動場 5カ所（当麻健民運動場、新庄第1健民運動場、新庄第2健民運動場、新町球技場、農村広場） テニスコート 3ヶ所（当麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート） プール 2ヶ所（新庄、当麻両スポーツセンタープール） 上記体育施設の維持管理・運営を職員4名、嘱託1名、アルバイト3名で行っている。 施設の老朽化に伴う修繕については、施設管理の方向性を検討し、公共施設のファシリティマネジメントとの整合性を図りながら、計画的な施設の維持修繕を実施する。				
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
		事業費 ①		43,839	55,731	62,207
		内一般財源		42,135	54,355	60,780
		内国・県補助金				
		内受益者負担		1,704	1,376	1,427
		人件費 ②		6,906	7,290	7,290
		総コスト①+②		50,745	63,021	69,497
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	施設管理費	千円	43,839	55,731	62,207
		内修繕、工事費	千円	13,133	9,920	24,597
	事業 成果	施設利用者	人	187,542	171,918	190,000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	老朽化が著しい各施設の維持管理について、修繕が必要な箇所が数多くあり、優先順位をつけて対応管理を行っている。今後は、公共施設全般のファシリティマネジメントとの調整、整合性を検討した上で、抜本的な改善が必要である。			
事業の課題・問題点	それぞれの施設に修繕箇所が多数ある中、今年夏には全国中学校体育大会(サッカー)、更に2021年にはワールドマスターズゲームズ(綱引)が開催予定であるが、それぞれの会場で改善する必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	施設の老朽化が進んでいますので、令和3年に開催されるワールドマスターズゲームズ(綱引)までに改修修繕を行う予定です。また使用料徴収などの施設使用有料化におきましても今後検討していきます。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	二町合併により、多くの施設が存在する葛城市。施設の使用年数が延びると必然的にランニングコストも上昇しがちです。複数の施設をレベル分けし、「ハイレベルな施設には応じた施設利用料を設定する」「ローレベルの施設は初心者向けに無償とする」などして、施設の使用頻度を調整し、長期的な運用計画を立てるべきです。 毎日数多くの人が活動する体育施設は、安全で快適に利用できなければならない。そのためにも点検が必要であり、日々点検し確認していただいている。これからも、老朽化が進む中、点検・改修して使用者が安心して活動できる体育施設に取り組んでください。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	施設使用有料化については、現行の各種協議会や他市町村の検討方法などを確認するとともに、体育施設に関する運営協議会の設置等を含めて引き続き検討して参ります。 施設の老朽化に関しては、必要に応じて点検・改修を行って参ります。また、施設使用者の声も参考しながらより安心してご利用いただける施設運営を行っていきたいと考えております。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	総合型地域スポーツクラブ事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	総合型地域スポーツクラブを設立し、市民のスポーツ意識の高揚、健康増進や体力向上及び子供から高齢者までの人々が集い、スポーツや文化を楽しむコミュニティの実施を図る。				
事業の内容	平成28年度末に総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」が設立され、市のスポーツ教室と両事業での重複教室を移行して、クラブの充実を図る。 さらに、公共施設を有効利用して、市民(地域)の方が、気軽に参加でき、人と人のふれあいや仲間づくり、また、市民(地域)のために運営・活動をおこなうもので、健康増進に加えて、子供たちの健全育成のために、現代社会の諸問題(子供の遊び場の減少やいじめ不登校をはじめとする教育問題、さらには、核家族化による世代間交流の欠如などの問題)に、応えられるスポーツクラブの運営を目指す。				
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成29年度決算	平成30年度決算見込み	令和元年度予算
			事業費 ①	2,700	2,690	4,560
			内一般財源	270	470	456
			内国・県補助金	2,430	2,220	4,104
			内受益者負担			
			人件費 ②	1,196	1,145	1,145
			総コスト①+②	3,896	3,835	5,705
実績と 成 果	区 分		単位	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度(目標)
	事業 実績	諸謝金	千円	1,157	1,200	2,160
		事業費	千円	1,543	1,490	2,400
	事業 成果	体験教室参加者	人	12	161	250
		設立準備会	回			
		教室参加者	人	171	238	300
		運営委員会	回	7	10	12

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成29年度より本格的にスタートした事業であり、当初は参加者を集められるか不安のある中スタートしたが、平成29年度には171名、平成30年度には238名の教室生を集めることができた。			
事業の課題・問題点	国の補助を受けての事業ではあるが、現在と同一の補助を受けられるのは令和3年までであり、今後教室や事業を増やしていく必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	将来的には、教育委員会主催のスポーツ教室をスポーツクラブに完全移行できればと考えていますが、スポーツクラブはまだ始まったばかりで、完全に軌道にのっているとは言えない状態にあります。これからスポーツ教室をはじめ色々な事業に挑戦しながら、3年後を目途に独立採算制団体を目指し、住民のニーズに応えられるように運営委員会と協議し今後に臨みます。
-----------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	3年後、独立採算できる団体を目指していますが、現在の取り組みでは改変速度に不足を感じます。このままでは無償の各種教室事業と有償のスポーツクラブが並立し、二重の行政負担と、事業間の干渉が懸念されます。全ての教室事業を一旦移行し、スポーツの内容や人気に応じて受益者負担額を変動させる、マイナースポーツは市として補助し負担を軽減するなど、より民間に近い思考が必要です。 この事業は国の補助事業であり令和4年以降は補助金がなくなり、受益者負担だけで実施していかなければならない。そのためにも、市民のニーズを的確に把握し、事業の目的達成に向け危機感をもって取り組み、来年度より一定の成果を上げる必要がある。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への 反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	現在、スポーツクラブ葛城はクラブマネージャー1名のみで各教室の企画・運営を行っている状況であり、各種教室事業の一括移行は難しいと考えております。ただし、事務スタッフの増員を検討するなどの体制強化を図っており、可能な限り早急に移行を行っていきたいと考えております。 また、ご指摘いただいておりますようにスポーツの内容や人気に応じた価格設定等についても運営委員会と協議し検討して参ります。	

7. 点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書（各事業評価シート）について、教育委員会より以下の意見を受けました。

（1）各事業に対する意見について

事業 No. 1 空調設置工事

幼・小・中市内全ての教育現場において空調設備が整った中、今後は機器等の稼働面や運用面について検討していく必要があると思われる。

使用については各校、各幼稚園又それぞれの各教室に於いて、環境条件が変わってくるので、十分な湿度、温度管理をし、28度に捕らわれず適切な使用をしていただきたい。

事業 No. 2 小・中・幼各所改修工事

教育施設の老朽化が進み、それぞれの箇所において改修工事を行う必要性が多くなってきている中、子供たちが日々安全で快適な学校生活が過ごせるよう、早急に対応できる環境整備の体制づくりを望みます。

事業 No. 3 小学生スポーツ教室委託事業

子供たちに「夢をもつこと」の大切さを学ぶためのすばらしい機会であり、予算が伴うが中身が充実しているので、毎年お願いしたい。折角、来校されているのなら、子供たちからの質問コーナーや先生も加わり、積極的に意見が出やすい雰囲気づくりを行ってほしい。

未来ある子供たちが、将来に向けての夢や希望を繋げていくための手段として、今後も事業の継続を希望します。

引き続き努力していただきたい。

事業 No. 4 学校給食事業

学校給食事業については、施策等への反映方針に述べられている通りで、園児・児童・生徒誰しもが美味しいと云える給食でありたいものです。給食費の値上げについても食材等の価格上昇のため十分検討して行って下さい。

「3, 4年前から味が変わった。」「パンがパサパサ」「組み合わせがおかしい」等、子供たちや保護者からの声をよく聞くが、その原因を追究し、幼・小・中学校に足を運び、生の声を聞いてほしい。大変ですが、安心・安全・おいしい給食をうたっているの

で、向上していったほしい。

給食事業については、現在、安心・安全で栄養バランスのとれた学校給食運営の取り組みを実施していただいているところですが、子供たちが、常に「美味しい」と感じられるよう、味つけの工夫や献立内容の見直しに努力していただきたいと思います。アレルギー対策も配慮され、安全に供給されてきている。が、「味」の面で子供たちから、不満が出ているようであるので、早急に原因を調査し、給食費の値上げも念頭に置いて検討していただきたい。

事業 No. 5 葛城歌壇短歌大会

一般出詠者数を増やすために広報や短歌講座の実施に力を注いでもらっているがあまりにも講座参加者の少ないのが気になる。普段より公民館やゆうあいステーションまたは広報等に過去の優秀作品を展示・掲載するなど、目にする機会があれば興味、関心の持つ者も増え、自ずと講座参加者や地元出詠者が増えると思われる。

受賞された作品は、表彰式だけでなく、広報誌にも載せてみてはどうか。

事業 No. 8 成人式式典事業

本市として毎年誇りのもてる成人式である。新成人スタッフが核となり「心に残る成人式」は高く評価したい。これからも行政や経験者の意見を取り入れ新成人の全ての人が成就感のもてる成人式を期待します。

事業 No. 9 青少年健全育成事業

事業の目的である「地域ぐるみで」が見えてこない。青少年を取り巻く環境は激変しています。情報を把握し、協議会では先きを見越した会議を開き事業を展開していただきたい。

こども・若者サポートセンターとの連携を図る為に、サポートセンターで開催されている講座や講演会の参加や、当協議会での会議に年1回サポートセンターの方から子供たちの現状報告をしてもらうことでつながっていくと思われる。

事業 No. 10 学校・地域パートナーシップ事業

コーディネーター間の連携を密にされていることは大変喜ばしいことである。また、学校支援ボランティアの方々も気軽に学校に訪れ、環境整備やこども達への学習支援に力を注がれていることは高く評価できるものである。地域にある学校が地域と共に協同するのに育成するのにかせない事業である。更なる継続を期待する。

事業 No. 11 生涯学習まちづくり推進大会事業

我が地域の歴史や伝統行事について全てを知る者はいない。そこで地域住民の協力を

得て文化や歴史また独自に取り組まれている事業等を市民の集まる場で発表できることは市全体の生涯学習まちづくりに重要な事業と考える。令和4年で市内すべての分館モデル発表が終える予定ですがアンケート調査等で住民のニーズを把握され今後に向けて検討して頂きたい。

事業 No. 12 葛城アートフェア事業

当麻寺駅より當麻寺までアートで飾られ、毎年行ってみたいと思わせ、芸術が身近なものに感じられる。葛城市の子供たちにも、アートフェアを鑑賞し、また、アートフェアの様子を映像で見せたりし、葛城市の自慢の1つにしてほしい。

事業 No. 13 公園まつり実行委員会業務

定番行事として市民の参加も多く、関係団体の活動ぶりがいきいきされているのは大変良い光景である。マンネリ化が課題ですが実行委員会が核となり関係団体に働きかけ円滑に事業が運ばれることを期待する。

事業 No. 15 中央公民館・當麻文化会館 教室・講座事業

パソコン講座について、WINDOWS7のサポートが令和2年1月頃に終了するようであり、WINDOWS10に移行しなければならない。この結果、受講の需要が増えてくることが見込まれるので、適宜、WINDOWS10対応の機種に入れ替えることを検討していただきたい。

事業 No. 16 文化振興事業

公演内容によって入館数にバラつきがあるように思われます。話題性のある著名人などに人気があり、質の高い公演を求められている傾向にある。アンケートなどによる資料を精査し、葛城市民のニーズにあった事業の展開が必要と考えられる。

林修先生の講演会は、市民の反響はありました。有名な方なので、すぐに噂が広まっていたようです。教育・スポーツに熱心なまちとして、次回はアスリートの講演会にし、教育・スポーツを交互に行ってみてはどうでしょう。

事業 No. 17 展示（常設展・特別展等）事業

歴史博物館が本市にあることは有難いことである。またその存在感を高めるため、博物館ネットワークも構築され特別展や常設展を計画的に行われいることに感謝する。長くこの事業を存続するために後継者の育成また専門職員の増員を図られたい。

事業 No. 18 歴史講座開催事業

郷土の歴史文化に焦点をあてた講座「葛城学」に市内外から多くの参加が得られていることは大変喜ばしいことである。今後も情報発信と普及活動に取り組まれ受講者の郷

土史に対する興味・関心が高まることを期待する。

事業 No. 19 埋蔵文化財等調査事業

埋蔵文化財の発掘調査については専門を有する職であって、毎年のように人員不足で大変困惑されている。歴史博物館の存在と将来的に文化財を保護していくためにも人員の増を図られたい。

専門職員の増員を早急に行い、後継者の育成にも引き続き努力願いたい。

事業 No. 21 各種スポーツ大会等開催事業

市民体育祭については、市民全体が一丸となって楽しく過ごせるようにプログラムの内容の見直しを検討していただき、実現に向けての取り組みを期待します。

事業 No. 22 体育施設の管理運営事業

施設の利用者数を見ても老若男女問わず多くの市民が利用されているのが伺える。スポーツ人口の増えることはとてもいいことです。施設の安全確保には日々点検し、利用者からの声も受け入れ快適に活動できる施設を期待する。

2021年にワールドマスターズゲームズが開催され、当市は綱引の会場である。早急に体育館の改修を行い、他国から来られる選手のおもてなしに取りかかってほしい。

事業 No. 23 統合型地域スポーツクラブ事業

国の補助を受けて多くの教室生を迎えられたことはスポーツに関心があり、意識の高揚に繋がるものと云えよう。今後この事業を遂行していく上で、補助金の打ち切りと合わせて市民のニーズを的確に把握し、関係する機関の意見を取り入れ目的達成に向けて取り組んで頂きたい。

ジョギングは、誰でもできるスポーツであるので検討してほしい。(例えば、第1健民グラウンドに走るコースを整備する等)

(2) 総評

主要な23事業について、事務局・各機関は「A 評価…5、B 評価…17、C 評価…1」と自己点検しています。その中でも、C 評価「成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い」と判断される事業もあります。改めて、それぞれの取り組み状況を振り返りたいと思います。

今後も、事業の対象となる市民の皆様の満足度を第一に考え、ファシリティーマネジメントに基づいて、PDCA サイクルで事業遂行をしまいたいと考えます。

この事業評価に関わっていただきました有識者の方々には、高い見識と豊かな経験のもとに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

いただきましたご意見を真摯に受け止め、未来に生きる子どもたちが健やかにたくましく成長できるよう、また、市民の皆様が日々の生活の中に安らぎや喜び、潤いを感じていただけるよう、関係者皆様のご理解とご支援・ご協力を得ながら事業の推進に向けて努力してまいります。

令和元年9月1日

葛 城 市 教 育 委 員 会